



「野球」

公益社団法人 日本防犯設備協会

規格調査委員会 委員長／警報システム分科会 主査

セコム株式会社 知的財産部 技術法務グループ 主任

渡邊 真基



WBC が盛り上がりを見せています（本稿執筆時点）。ダルビッシュ選手や大谷選手の加入により、一昔前の、日本ならではのスモールベースボールで勝抜くスタイルでなくても、互角に力勝負ができるのでは？という期待感が増していますが、さてどうなるのでしょうか。

2014 年、前任者からのバトンを受け技術基準委員会（警報システム分科会）の委員となり、2018 年に規格調査委員会の委員長を拝命してから、はや 5 年…ついにコラム寄稿のお鉢が回ってきました。

規格調査委員会のミッションの紹介も考えましたが、自由題材ということで、WBC にかこつけて（?）、私自身、長年野球に携わってきたこともあり、「野球」をテーマに寄稿させていただきます。

38 年の現役人生にピリオド

唐突ですが、野球というスポーツの特徴を意識されたことはありますか？

例えば、

- 監督やコーチが選手と同じユニフォームを着ている
- 球技でありながら、人を運んで（ホームベースを踏むことで）点数が入る
- 団体競技ではあるものの、殆どの時間が 1 対 1 の直接対決
- 時間制限がないため、試合終了まで勝負が決しない（9 回裏に 8 点差を逆転して甲子園出場！なんてこともありました）

などが挙げられるかと思います。サッカー、バスケットボール、ラグビー、ゴルフ、卓球などの他の球技とどこか違う種類のスポーツのように（勝手に）感じています。

今でこそサッカー人気に負けていますが、私が子供の頃は取り敢えず野球から…という時代で、私も当たり前のように小学 1 年生から野球チームに入りました。投げる、取る、打つ、走る、滑る…やることが多く難しいスポーツにどんどんはまっていき、寝ぼけて「バッチコイ！」と



叫んでしまうほど、週末の野球が待ち遠しくなったことを覚えています。その後、中学（そこそこハードに）、高校（かなりハードに）、大学（それなりにハードに）とうち込み、就職してからも縁あって1977年創部の草野球チームに入団しました。

この草野球チーム、入ってびっくり、かなり真剣に取り組んでいるチームでして、毎週土曜日は必ず練習試合を組み、公式戦が入ると日曜日も試合。ダブルヘッダーになると土日で4試合ということも…。試合に出たいので平日の夜はトレーニング、週末は必ず出席する、という生活が当たり前になり、結婚してからも子供が生まれてからもその生活は続き、妻は早い段階で「今週の土日は何時にどこ？」なんて当たり前のように聞いてくれるようになっていました（感謝！）。そして、ベテランと言われる歳になってからも「まだまだ若いもんには負けん！」精神で張り合っていました。

状況が変わりだしたのが昨年。サッカーを習っていた小学3年生の長男を野球に目覚めさせることに成功し、近所の少年野球チームに入団させてから。息子の監視目的で自分の野球終わりに寄ったり、ついでに手伝っていたところ、コーチをお願いされました。「自分の野球優先でよければ」と受け入れたのですが、昨年末、新4年生以下チームのヘッドコーチをお願いされてしまい、悩んだ末、今年から土日は子供たちに捧げる覚悟を決めました。数えてみれば38年間。非日常の緊張感や高揚感を味わえなくなる寂しさはありますが、子供たちの真剣な眼差しに触れるのも楽しくなりつつあり、最近では逆に元気をもらっています。

少年野球から学ぶ

少年野球に顔を出すようになり、特に低学年を相手にすると、改めて道具を使うスポーツの難しさに直面します。「常にグローブのポケットで取るんだよ」「バットのヘッドは立てて打つんだよ」と指導しても、筋力が追いついていないので、投げ



る手と反対の手がブラブラ。ゴルフ？ってくらいヘッドが垂れてしまう子もいます。それでも、今はできなくても高学年になったときに力を発揮できるようにきれいなフォームとスイングを身に付けてほしいので、同じことを繰り返し丁寧に伝えています。

最近はYouTubeで様々な情報に触れることができ、子供たちもコーチ陣も色々と参考になっているようです。どれも正しい情報なのでしょうが、子供たちはそれぞれ特徴も癖も違うので自分に合うかは分からない。私は、まずは子供の動きを見て真似て「なぜそういう動きになるのか」を考えてみてから、「こうなっているよ」と見せてみて、なぜ修正した方がよいのかを説明し、「こうしてみようか」と個々に合った指導をすることを心がけています。もし忘れていたら「あれ？」と気づかせてみて、「どうするんだったけ？」と自分の言葉で説明させ、説明できそうになればヒントを与えながら思い出してもらおう。できたときは「そう！今のよかった！」と大袈裟に褒める。学年が上がれば、時に敢えて叱り奮起を促すことも入れていくつもりですが、野球が嫌いになることは絶対にやらないように！これには特に注意しながら、子供たちから学び、成

長さしてもらい、いい関係を築き、勝つ喜び（勝たないと面白くない！）を共有していければと思っています。

子供たちの未来に

冒頭で触れましたが、野球は投手が打者にボールを投げる1対1の真剣勝負からすべてが始まります。ですので「勝敗の9割は投手で決まる」と言われたり、打者は打って3割なので「失敗するスポーツだ」と言われたりします。そうすると、仲間内の声掛けが非常に大事になってきます。時間制限もないので、投手がピンチを迎えている時や野手がエラーをした時など、どう時間を切ってどんな声をかけるか。また、特別な場面で回ってきた時にいつも通りの力を発揮するためにはどうしたらいいか（緊張とどう向き合うか）、といった精神的な側面も大事になり、勝敗に大いに影響してきます。技術とは関係のない部分の日ごろの行いや準備、取組み姿勢の方が大切、と言っても言い過ぎではありません。私自身、野球からたくさんのことを学びましたし、少し大袈裟かもしれませんが、野球に携わってきたことが自分の人格を形成しているように感じている部分もあります。

野球を通じて、大きな声で挨拶ができる子に、元気にハキハキ気持ちの良い子に、目配り気配り心配りができる子に、仲間を思いやれる優しい子に、仲間のために本気になれる熱い子に、暑い寒い痛い辛いなど少々のことにくよくよしない気持ちの強い子に、失敗を糧に努力できる子に、緊張のなかで力を発揮できる子に、自分を知ることができる子に、芯のある子に…言い出したらキリがありませんが、子供たちが将来大きくなって「野球をやってよかった」と思ってもらえる時があったら、関わらせてもらった身として（私のことは思っていないでしょうが）こんなに嬉しいことはありません。

野球から得た教訓

松井選手（元ニューヨークヤンキース）が大切にしている言葉に「人間万事塞翁が馬」というのがあるそうです。自分にとって上手くいかない時期やタイミングは誰にでもあるはずだが、これはもしかしたらとても大事な時間で、寧ろ必要な時間かもしれない。なので、一喜一憂せずにすべきことをする、という意味だったかと思います。

仕事でもプライベートでも、若手でも中堅でもベテランでも、誰にでもあることだと思います。失敗から何を学ぶか。腐りそうになっても、明るく、課題として捉え、乗り越えるべく修行するだけのこと。そうすると、もしかすると今より良い未来が待っているかもしれない。仮にそうでなくても、人間を鍛えてもらったおかげで人との付き合いが上手になったり、他人にいい影響を与えることができたりするかもしれない。

上手くいかないこと（時期）も一旦受け入れることから始めてみよう！こんな話もいつかしてみたいのですが、引かれちゃうかもしれませんね…（息子限定にしておきます笑）。